



清里 まちづくり No.46

企画・編集・発行 清里まちづくり協議会 事務広報部会

清里まちづくり協議会事務局

〒370-3573 前橋市青梨子町 339 清里公民館内

TEL251-9005 FAX255-0341

◆枝豆収穫祭・夏祭り開催

【清里まちづくり広報部会長

桜井 勝】

7月23日(土)枝豆収穫祭を子育連の夏まつりと合同で清里公民館にて開催しました。このお祭りはふるさと祭を行わない年に隔年で開催しています。当日は天候にも恵まれ、多くの子ども達の参加がありました。開会式には、山本龍市長も駆けつけてくれ、祭りを盛り上げてくれました。

受付では、枝豆もぎ取り用の袋と清里名物となったきよさと焼とカキ氷の無料券が配布されました。枝豆のもぎ取りはホールで行い、みんな袋いっぱいにもぎ取った枝豆を詰め込んでいました。



枝豆のもぎ取りの様子

風船で、なにを作ろうか



げんきいっぱい、八木節

公民館駐車場では、無料配布のきよさと焼と子育連のカキ氷が長蛇の列でした。これ以外の模擬店もたいへん賑わっていました。イベントでは、子ども八木節部会による八木節演奏で会場がたいへん盛り上がりました。またクイズコーナーでは、枝豆に関する問題を○×形式で出題しました。賞品もあり、たくさん子ども達で大盛り上がりでした。

◆前橋七夕まつりに参加

【清里まちづくり事務局長

松下博寿】

7月6～9日に開催された前橋七夕まつりに清里まちづくり協議会の七夕かざりを出展しました。市内の12の地域づくり協議会がそれぞれ飾りを作り、それを集めて前橋市地域づくり連絡会として出展したものです。清里では、連日まちづくり会長さんや役員さんが公民館に集まり、地元特産の枝豆、玉ねぎをモチーフにした飾り作りに奮闘していただきました。地区の皆さんから提供していただいた生の枝豆や玉ねぎ、わら鉄砲を使い、オリジナリティーにあふれた、楽しい作品が出来上がりました。きっと自然あふれる清里地区のPRになったと思います。この作品は「上毛新聞社賞」を受賞しました。



◆前橋地域づくり交流フェスタが
開催されました。

【地域づくり連絡会委員
新井博孝】

6月18日(日)10時〜15時に、前橋中央イベント広場(中央通りアーケード)で、前橋市内23地区の協議会が集まり、第11回交流フェスタが開催されました。

清里地区は、子ども八木節やだんべえ部会の舞台発表の他きよさと焼の店やパネル展示などを行いました。

昨年も中央通りで開催しましたが、今年も天候にも恵まれ多くの来場者に来ていただけました。舞台発表でもとても盛り上がり「清里はすごいね」という言葉をいただきました。

きよさと焼を
楽しみにして
いた方も多く
とても励みに
なりました。
参加された方
方のおかげで
とてもよい評
価がいただけ
ました。
有難うござい
ました。



子ども八木節・だんべえの様子



「きよさと焼」に長蛇列

◆きよさと焼教室

【食育部会長 新井孝】

毎年恒例の小学三年生のきよさと焼教室を7月13日に行いました。今回は子どもたちに作業工程を順序良く説明し、指導者は手を出さないよう申し合わせて行いました。

可愛いエプロン姿の子どもたちが、関口副部会長の説明を聞きながら、各テーブルに6〜7人で役割分担を決め、材料をまぜる人、お玉やフライ返しを使う人などみんな上手にでき、心配はいりませんでした。子どもたちからは「美味しかった」、保護者からは「子どもたちの成長を感じられてよかった。」等の声が聞かれました。役員の皆様にはご協力いただきありがとうございました。

◆豆出し作業

【食育部会長 新井孝】

8月3日枝豆の豆出し作業を自治会長はじめ役員の皆様の協力で行いました。

今回は前橋市の地域おこし協力隊の3人の方も参加され、初めての枝豆作業に驚いていました。おかげできよさと焼一年分の枝豆のストック保存をすることができました。ありがとうございました。



「きよさと焼」さ〜 作ろう。



「おいしい」上手くできた。



◆二年に一度の納涼祭

【青梨子町自治会長 田村孝夫】

8月27日、青梨子町集会所を会場に、青梨子町納涼祭が開催されました。六月初めから準備が進められましたが、地域の方々による手作りイベントを担う実行委員の主力は毎年変わる組長さんです。このため経験不足が心配されましたが、本番では、経験者にてきばきと指導していただき、短時間に準備が整い、天候にも恵まれて予想以上の老若男女が集い立ち見の方も出ました。菊池内科クリニック院長菊池孝先生の講演、地元はぎ和俊歌手の歌謡ショー、芸達者の皆さんによる舞台発表や日頃の精進の成果を結集した作品・山野草の展示など、盛りだくさんの内容で



地域の皆さんが楽しい時を共有できました。青梨子町にたくましく根づく地域を大切にする伝統と思いやりの心をかみしめた一日でもありました。

◆前原納涼祭ほか

【青梨子町前原自治会長 松島武久】

前原地区納涼祭は7月29日(土)に開催されました。当日は、あいにくの雨となり、開催場所を急遽前原集落センターに変更になりました。センター敷地にテント4張りを用意し、模擬店は5出店しました。本年は、祭りの時間を一時間短縮したにもかかわらず多くの方に参加して頂き、全て時間内の完売となりました。



厳肅な神事に始まった子供神輿の巡幸はホール内でしたが、子供20人が法被に着替え、非常に元氣よく氣勢を上げ、汗を流しました。ビンゴゲーム・スイカ割り、多くの子ども、会員の参加を頂き大変有難うございました。また、まちづくり協議会の子ども八木節、だんべえ踊りには大変お世話になりました。

先日、市主催の防災講演会に参加し、元仙台市の消防局職員を講師に防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を体験しました。普段私たちは、沢山

の情報の中で生活しているいろいろな判断をしておりますが、【災害時は少ない情報の中で、その時々々のベターな判断をしなければならぬ】と助言を頂きました。9月は、防災月間です。ご家族の間で災害時の連絡の取り方、防災グッズ、そして、三日間の非常食の備え等を話し合われたら良いと思います。



◆野良犬獅子舞・秋祭り

【清野町自治会長 下境義光】

今年も夏休み中の子ども会による獅子舞の練習が始まりました。新前5・6年生男子が三体の獅子・ささら・カシカチ・棒使い合わせて七人の舞を全員での稽古です。教えるお兄さん達も教わる子供達も汗にまみれ繰り返し練習です。女子は篠笛をお兄さん先生から前庭の部(宮巡りを含めて六種)後庭の部(塩汲みを含めて七種)合わせて十三種の唱歌を舞に合わせて練習です。最近では若いお母さんたちも一緒に習っているようです。この光景こそが地域での世代間交流の輪を広げつつ、まちづくりに大きな役割を果たしていると感じています。

地域の芸能文化の継承と保存・青少年の健全育成を願うときに地域の子どもは地域で育て、地域への誇りと愛着・生きる力と豊かな心を持った子ども達

を育てるための環境創りこそが我々大人たちの使命とし、「まちづくり」に励みたいと思えます。

先日練習中に上毛新聞社の小林いず美記者が取材に見え8月30日(水)中央版に掲載されました。



(上毛新聞掲載写真)

編集後記

最近、頻繁に流れる北

朝鮮のミサイル関連ニュース、世界的にも注目度はかなりなもの。

先月は、Jアラート(全国瞬時警報システム)で、「頑丈な建物や地下に避難して下さい。」と警報があり、テレビでもひたすら繰り返し放送してしたが、うちはボロ屋だし、どこに逃げれば...避難所の公民館、方面運動場、小学校...、頑丈な建物、地下...?どここれだけ国際情勢が変化緊迫している時代、日本国民のための防空壕やシェルター等があっても変でないのでは。警報システムは確かに大事。でも、ミサイルの発射よりも、日本国民が安全に避難する場所がないと言う事の方が問題では。平和ボケなのか、それとも政府の対応が甘いのか。平和ボケで避難行動をしなかった人間が言うのも変だけ。

(T・T)

◆花いっぱい運動部会視察研修

【青梨子町 関根幸子】

花いっぱい運動部会からの嬉しいお誘いは個人的には決して学ぶことのできないポールスミスサー氏の清里高原「萌木の村」のガーデンツアーとターシャチューダーの記念館の見学でした。園芸を業とする私の憧れの両氏に触れられた貴重な一日研修でした。

園芸家である前にナチュラリストの両氏の園芸に対する取り組みの基本が直に学べましたことは幸福な一日でした。特にポール氏の一粒のタネ、一本一本の草木、一滴の水、一匹の虫、一羽の小鳥、風の動き、雲の流れ、陽の光、雨、霜、雪と自然界のすべての、人との係わり、連鎖と巡回。その一つ一つの気持ちをまるで聞き取ったかのように言葉に置き換えての説明は深い深い感動でした。今後も続けたい私自身の園芸生活にこの学び得た数々をどう生かし続けていけるのかと、あの日以来大きな課題の中に居る今日です。本当にあり



がとうございました。



◆時のながれ

【池端町自治会長 高瀬照雄】

全国にある池端町の地名を探してみると那覇市首里池端町、名古屋市池端町、京都市上賀茂池端町の3か所であった。町がつかないが愛知県知立市池端というところも1か所ある。呼び方も「いけはたちょう」、「いけばたちょう」と当地の「いけはたち」の3通りとなっている。

池の端ということで名前が付けられたと思われるが定かではない。最近まで各戸に多くの池が存在していたが、上水道の整備や上越新幹線のトンネル工事などで水脈が変化し、湧水や井戸



身も心も癒され、楽しいです。

水が枯渇し、さらに、土地改良事業に伴い、古き小川や古墳が無くなり、有形物として残っているのは池端神社（神明宮）ぐらいしかない。この神社の特徴は古墳の上に建てられており、大変珍しいものである。

今年には県道南新井・前橋線整備に伴う遺跡の発掘調査が行われ、縄文・弥生、平安時代初期の竪穴式住居跡・井戸などが多数見つかった。この様子を映像と写真に収めているので、記録として編集し報告したい。



発掘調査の様子



◆盆踊り・秋祭り・庚申待

【上青梨子町自治会長 笹澤春雄】

上家青梨子町三大行事は、古くから故郷の伝統行事として語り継がれ、大切に守られてきました。

盆踊りは、過日地域の皆様のご協力で開催されました。老若男女が櫓を囲み、ご先祖様を偲び、又ご家族の健康を祈りつつ踊りました。

秋祭りの百万遍は、江戸時代、瑞雲寺に、鐘と数珠が寄贈され、五穀豊穡と村の繁栄を祈願してきました。祭り当日は、20mの数珠を子供達が座って持ち、円の中で寺世話人が鐘を鳴らし念仏を唱えます。健やかに育つ事を祈って、数珠を回します。子ども神輿は、淡島神社の前で神主のお祓いを受け、町内四カ所で担ぎ町内を浄めます。

庚申待は三月に開催されます。江戸時代から、庚申塔は各戸が帝釈天猿田彦大神を祭っていました。江戸時代飢饉が起こり、現在の庚申塚の地に親庚申を建て、各戸の庚申塔を集め供養したのが始まりと言われています。現在では、世話人が祭り当日に庚申塚を掃き浄め、子供達が五目飯と線香をそなえて供養します。

三大行事は、町の生涯学習推進委員の方達を中心になり準備を進めます。しかし、主役は子供達とお年寄りです。世代間の交流を深め、親子の絆を強める場となっています。